2015年の日の出

益城町 議会だより 清水（せいすい）

平成26年(2014) 12月定例議会 No.58

平成26年度 一般会計 補正予算など審議 P2
指定管理者制度 P3
町政を問う 一般質問 P5~P10
常任委員会レポート P12~P13
「奈良・三重県に学ぶ」議員研修 P14
皆で健康を考えよう P16
むぞらしか お宝さん

平成27年第１回定例議会は３月３日（火）召集予定です。詳しいことは、議会事務局にお尋ねください。（☎286－3111）

12月定例議会

補正予算
高齢化を見据えての補正
条　例
一般職員の給与0.3%引き上げ

平成26年第4回定例議会は、12月8日から12日まで会期5日間で開かれ、2629万円を追加する平成26年度一般会計補正予算など19議案（補正予算5、条例4、専決1、指定管理者の指定3、人事4、その他2）及び議員提出（農協改革に関する意見書）の審議を行い、可決・同意した。

主な補正は、介護給付費など扶助費5573万円、地元自治会が取り組む寺中公民館のトイレ整備補助金155万円。潮井公園の工事費は本年度分から7000万円を減額し、来年度以降に先送りする。

条例関係は、一般職員の給与、ボーナスの引き上げなど。

指定管理では、町民憩いの家、町文化会館、町総合体育館など町内9か所の体育施設を指定管理者に指定することに同意した。

補正予算

利用者の増加による介護・訓練等給付費が計上

介護・訓練等給付費、障害児施設給付費の扶助費とし増額補正がなされるとともに、老人保護措置費として扶助費などが計上された。

これは利用者の増加に伴い国庫負担金及び補助を受けて補正がなされたものである。

特に今後高齢化が進む現状において、施設の設備補助金及び入所者の増加による措置費の増額補正が行われた。

寺中公民館のトイレが水洗に

ふるさとづくり施設整備費補助金で寺中公民館のトイレの改修費として補正予算に計上された。当公民館は地域のサロンとして、また高齢者の方が活用することから、地域の要望が強くなされていたが、今回下水道敷設に伴い水洗トイレに改修される。

条例制定

職員の給与、通勤手当など平均0・3%引き上げ

益城町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例が提出され、全会一致で可決した。

今回の改正は人事院勧告による国家公務員の給与改正に伴う給与条例の一部改正であり、民間給与との較差を埋めるための給料月額の引き上げと通勤手当及び勤勉手当の引き上げの3点である。

給与については、世代間の給与配布の観点から、若年層に重点を置いた改正になっている。

県は12月22日、県内45市町村の一般行政職員の給与水準を示すラスパイレス（2014年4月1日現在）を公表したが、国家公務員を100とした県内市町村の平均は97・3で、益城町は94・3と平均をわずかではあるが下回っていた。

出産育児一時金の額が変更

国の健康保険法施行令の一部を改正する政令が公布されたことに伴い、産科医療補償制度の掛け金が一分娩あたり、現行の3万円から1万6000円に引き下げられることから、これに伴い出産一時金同額を現行の39万円から40万4000円に改正。

なお出産育児一時金と産科医療補償制度の支給総額42万円については変更はなく、全会一致で可決した。

ご意見番

潮井自然公園の工事費は7000万円減額したが計画通りに進むのか

平成26年度の事業費に対する補助金が当初の見込みよりも多く配布された。複数年かけての事業であり、各年度の補助金の配布具合や予定より多い工事量における安全面を配慮して減額を行った。

工事は当初の計画どおりに進めている。

町の3施設を指定管理制度にすることで財源の節約になるのか

経費の削減はもとより、民間の能力やノウハウを活用した住民サービスの質の向上が見込まれる。

指定管理者選定委員のメンバーは

教育長、総務課長、総務審議員、会計管理者、企画財政課長、及び関係課長である。

住民サービスの向上をめざし

体育館など３施設が指定管理者制度に

「益城町公の施設のあり方検討委員会」から、それぞれの3施設について「経費削減及び住民サービスの観点から、現在の運営を改め、指定管理者制度の導入を図ること」との答申を受けて、今回指定管理者を指定することについて議案の提出がなされ、賛成多数で可決した。

益城町総合体育館等

指定管理者
公益財団法人
熊本ＹＭＣＡ

指定期間
平成27年4月1日～
平成32年3月31日
までの5年間

主な住民サービス
遠隔地の方や各種団体・高齢者・障がい者の方の利便性の向上（マイクロバスを活用した送迎サービス）、障がい者の方々が気軽に利用できる施設・事業の展開、出前型の健康づくり事業、グラウンドを活用した益城あおぞら教室の開催、医師による無料相談等の他独自の事業として健康体操教室、ウォーキング教室や簡単ヨガの他、各種スポーツ講座や大会の開催が企画される。

指定を受けている類似施設
- 御船町スポーツセンター及び御船町町民グラウンド
- 大牟田市立多目的活動施設「リフレスおおむた」

益城町文化会館

指定管理者
益城町文化会館
管理運営共同企業体
代表
九州綜合サービス㈱
構成員
㈱パブリックビジネスジャパン
構成員
熊本朝日放送㈱

指定期間
平成27年4月1日～
平成32年3月31日
までの5年間

主な住民サービス
窓口受付サービスの延長（現行17時を22時へ）、早朝8時からサービスの開始、空き時間や休館日を活用した文化系カルチャー教室の開催、ロビーに展示スペース新設など。また現在実施している自主事業の「アーミーサウンズ in ましき」などは継続開催。

その他全国80か所の運営実績を有する「サントリーパブリシティサービス㈱（サントリーホール・川崎シンフォニーホール等）とコンサルタント契約を締結して協力体制を構築する。また「くまもと森都心プラザ」との連携した運営が期待される。

指定を受けている類似施設
- くまもと森都心プラザ
- 熊本男女共同参画センター「はあもにい」
- 菊池市文化会館
- 菊池市泗水ホール
- 熊本県民交流館「パレア」

益城町町民憩いの家

指定管理者
九州綜合サービス㈱
構成員
㈱くまもと健康支援研究所

指定期間
平成27年4月1日～
平成30年3月31日
までの3年間

主な住民サービス
ミニデイサービス「ましき元気クラブ」を活用した送迎サービスや買い物弱者対策として移動スーパーにおける軽食や地域特産物の販売を実施。また健康講座や健康相談、教室、カラオケ・囲碁・将棋大会を開催予定。

指定を受けている類似施設
- 八代日奈久温泉施設「ばんぺい湯」
- 宇土市健康福祉館「あじさいの湯」
- 合志市総合健康センター「ユーパレス弁天」

一般質問

6人が問う

宮﨑　金次　議員　P5

① わが町の将来構想について
② 計画的な財政運営について
③ 地域再生道路の活用について

稲田　忠則　議員　P6

① 放課後児童クラブについて
② 公園整備について

江越　信保　議員　P7

① 地域包括ケアシステムの構築について

髙橋津代美　議員　P8

① 町政について
② 町のホームページについて
③ 益城台地について

野田　祐士　議員　P9

① 益城町における交差点等計画
（木山交差点）
（その他の交差点）

甲斐　康之　議員　P10

① 臨時・非正規職員の待遇改善について
② 小規模企業振興基本法を活かし、
地域小規模事業者への支援を積極的に

一般質問とは

一般質問は住民から重大な関心と期待を持たれる大事な議員活動の場であることから、質問は行財政全般にわたって議員主導の政策論議をするものです。

制限時間60分の範囲で、一問一答制をとっています。

一般質問の記事

質問した議員が執筆したものです（一部広報委員が編集しています）。原稿は、原則として800字以内で要約したもので、原文を尊重して掲載しています。

一般質問

町長の描く30年後の我が町の姿について

町民が元気に笑いあえ、住んでよかったと思う町づくりを

地域再生道路（空港～グランメッセ）を町の発展にどのように活用していくのか

町の発展・再生に寄与するが、そのためには益城台地区画整理の成功が必要

宮﨑　金次議員

我が町が自尊自立するために町長が描く、町の将来構想について

宮﨑　平成21年の住民投票で我が町は、熊本市との合併を拒否し、町単独で自尊自立の道を選択した。そこで町長の描く町の30年後の我が町の姿について伺いたい。

特に、①町の中心地域は。②その頃の町の人口は。③町の税収は（ちなみに今年の自主財源は45％）。④町の道路網、水道・下水等のインフラの状況は。どう思われるか。

益城町の中心地域の30年後の姿は

総合計画を基本に将来的に、自立持続可能な町を目指す

町長　本町の公の将来像は、益城町総合計画にあるように、「水と緑の豊かで、人やすらぐ夢・創造の町、皆の笑顔と愛情あふれる町づくりを目指す」となっており、時代の進歩が目覚ましくて30年後の町のすがたは想像できないが、30年後も町が存続しているように、自立可能、持続可能な町を創造するとともに、町民の皆様が元気に笑いあえる町づくりを目指し、住んでよかったという町づくりを目指していきたい。

中期計画と年度の予算、更に各期毎に出される補正予算との整合性がないのでは

宮﨑　中期計画である実施計画と予算の経費区分が異なるので、今後工夫されて、中期計画に記載された内容が、年度計画にそのまま記載されれば、中期計画の意味も出るし、計画的な財政運営も可能となる。更に補正予算に唐突として登場する事業について、計画的な財政運営と言えるか、伺う。

更に効果的な財政運営に努める

町長　実施計画と年度予算の経費区分についての整合性については、それぞれの目的と法令等の制約から現実的には難しいと思われるが、備考欄を活用する事により、その目的を達成する事の可否を含めて、今後検討したい。

更に年度予算も計画的・効果的に編成し、補正予算についても、必要最小限にするように心がけたい。

間もなく完成する地域再生道路

地域再生道路の町としての活用法について

宮﨑　地域再生道路（空港～グランメッセ）の活用法について、今後町としてどのような位置づけで、町の発展に活用するのか。特に、益城台地の開発を誘引する為に、地域再生道路沿いに、例えばグラウンド、公園、病院、保育所等の施設を整備して、将来の為に手をうっておくべきではないか。

地域再生道路は町の発展に寄与する。今後区画整理とともに、各種制約克服策を検討したい

町長　地域再生道路沿線は、今後町の発展、再生に寄与する路線ではあるが、そのためには、まず益城台地の区画整理事業の成功が必要不可欠である。

また本地域に先行的に、公共施設を造ることについては、市街化調整区域内にあるという事で、農地法、農転法、都市計画法等の規制があり、各種の制約を受けるが、今後さらに検討したい。

一般質問

放課後児童クラブは施設不足と考えるが対策は

整備費補助事業の活用で新たに整備したい

潮井自然公園に古代ハス、飯田山自然公園に彼岸花植栽を

生育方法や植生等を調査し、検討したい

稲田　忠則議員

広安小、広安西小学校の児童クラブ利用者増の対策はどうするのか

稲田　広安小、広安西小学校では、児童クラブを利用している児童数が多く、定員を超えて運営されていると聞いている。

特に広安西小学校では、平成27年度の新1年生146人の入学が予定されていること、また現在、広安西校区では一戸建て住宅やアパート建築が増え続けており、今後も児童クラブを利用される家庭が増加し、施設の不足が見込まれると思う。

町として今後の対策はどのように考えているのか伺う。

平成27年度中に土地の選定、確保を

町長　広安西小学校の児童クラブについては、平成27年4月から平成28年9月まで約1年半の期間は、学校校舎内の余裕教室か、ミーティングルームを借用し対応したい。

施設の整備が必要になった場合、平成27年度中に土地の選定、確保をし、平成28年度の県放課後児童クラブの整備費補助事業を活用して新たに施設を整備したいと考えている。

広安西小学校児童クラブ施設

2000年前の古代大賀ハスを潮井公園の一角に植栽し、公園の目玉としてだけではなく、町に自生する古代ハスとして情報発信、PRしながら利用度、集客を図ってはどうか。

検討したいと思う

町長　淡い薄紅色の花を咲かせて、太古の夢を語り継ぐロマンの花、大賀ハスが、県内で山鹿市の県立装飾古墳館と当町の飯野地区の古代ハス園にあるということで、生育方法や植生等を調査し、検討したいと思う。

飯野地区の古代ハス

古代ハス植栽による集客を

稲田　潮井自然公園は、総面積3万9587平方メートル、総事業費4億5000万円のうち国の補助金2億1800万円、町の負担金2億3200万円を投じて環境に配慮した自然公園として完成予定だ。

そこで飯野地区に栽培されている、国内でも大変貴重な

飯田山自然公園の今後の整備計画に彼岸花を

稲田　平成25年度に素晴らしい絶景の飯田山自然公園が完成した。山頂付近には桜の木やアジサイが植えられている。そこで提案として、費用もあまりかけずに手入れも簡単な彼岸花を頂上の外側付近に植えてはどうか。4月は桜の花見、6月はアジサイの花、9月には彼岸花が咲き乱れるようになり、町民の皆さんも飯田山に登ってみようかと思われるのではないか。

調査研究をやっていきたい

町長　飯田山は町の象徴たる山である。飯田山自然公園として整備し完了しているが、案内板や、山頂部については不足もある。今後も町民の方々の意見を取り入れ、よりよい公園となるよう考えていく。

彼岸花についても、調査研究をやっていく。

一般質問

高齢化社会に向けて、「地域包括ケアシステム」の取り組み状況は

安心して暮らせるシステムづくりを目指し計画を進めている

江越　信保議員

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを

江越　2025年を目途に高齢者の自立支援の目的で、自分らしい暮らしを、人生の最後までできるように、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」構築に向けた取り組みはどうなっているのか。その実現に向けた「第6期高齢者福祉計画」の策定にあたっての見直しに必要なものは何か。

高齢者日常生活圏域ニーズ調査のデータを基に計画を策定

町長　65歳以上の人口がピークを迎えるのが2025年と予測しており、医療、介護受給者の増大とともに、受け入れ施設、医療、介護サービス料の増大に伴い、財源的に多大な負担を生じることが予測される。このような状況を踏まえ、高齢者生活圏域ニーズ調査のデータをもとに、来年度の「第6期介護保険事業計画」を策定し、住民に公表できるように計画を進めている。

また、町内の医療、介護に関する事業所の位置や施設の機能等を紹介したマップを作り、ホームページ等で閲覧できるように整備を進めている。

「包括ケアシステム」構築に向けて地域団体、介護施設や医療機関との連携は

江越　2025年までに「地域包括ケアシステム」を軌道に乗せないと高齢化の波は乗り越せない。地域団体やボランティア、NPO、介護施設及び医療機関との連携はどのようになっているのか。

町内にある特別養護施設

町内の医療、介護関係者と他職種連絡会を実施している

町長　一人暮らしの高齢者と認知症を抱えた家族の支援策として、生活支援サービスを提供できるシステムづくりや在宅療養を24時間365日体制で提供できるような体制づくりのために、郡の医師会と行政で協議を行い、町内の医療、介護関係者と他職種連絡会を随時実施している。

日常生活支援事業については配食サービス、掃除、洗濯等の軽度生活援助事業等、各種ボランティア、介護事業所を通じて実施しているが今後支援事業の中で連携をとり一層の「地域包括ケアシステム」の構築を目指す。

「日常生活支援総合事業」は町が主体、要支援対象者に配慮を

江越　総合事業は町が主体となって、要支援1・2の対象者への予防給付サービス、二次予防対象者への介護予防を総合的に行うもの。しかし要支援者に対する配食、見守り等サービスを含めた生活を支えるサービスが少なくなる恐れがあり、要支援切り捨ての批判もある。

現在の導入状況はどのようになっているのか。

サービスの低下にならないよう町独自の構築を考える

町長　平成29年までの経過措置がある。サービスの低下にならないように、地域の福祉関係団体と連携、協議を重ね、町独自のサービスを構築していきたい。

一般質問

有識者や経験者を交えた町政運営を

有識者等の意見交換の場は大切

髙橋津代美議員

益城台地開発の進捗状況はどうなっているのか

東地区については本格的な事業を推進している

町政については町民参加型に

髙橋 町政については、町民と一緒になって経験者や先輩の皆さんも参加し、有意義な意見交換ができることを望む。

5年後は高齢者が3人に1人の時期。34000人の理想的な益城町を願っている。

有識者、経験者を加えての意見交換は同感

町長 有識者を加えての意見交換は同感である。

そのことを踏まえてやっていきたい。

ホームページに月間行事を掲載しては

髙橋 町のホームページはこれからも活用が増える。

トップページに月間行事の掲載を希望する。

ホームページが身近なものになるよう努める

町長 昨年、職員によるプロジェクトチームを設置し、リニューアルを図ったところである。町民の皆様にとって、ホームページが身近なものとして活用できるように構築していきたい。

質問、要望などについては町民提案制度の検討が実現すれば、町民との協働の町づくりがさらに進むと期待する。

また、ホームページのトップページについては、益城町在住でデジタルアートの方に依頼し、すべての益城町を網羅した幻想的な絵を配置している。

益城町のホームページ

益城台地の進捗状況は

髙橋 益城台地の進捗状況は現在どうなっているのか。

町民に周知する必要があるのではないか。

東地区のみが現在進行中

町長 西地区については、県道を含む周辺幹線道路への負担を解消できないという理由から「イズミ」が進出を断念。

組合を中心に町、コンサルタントで検討中。

中地区については、組合運営の正常化に向けて検討を進めている。

東地区については、県での公聴会も特段の意見もなく、本格的な事業を推進している。

県において12月、国土交通省事前協議、2月、県国土利用審議会決定、3月町都市計画審議会、県都市計画審議会、国土交通省本協議会という流れになっている。

開発が待たれる益城台地

一般質問

今、木山交差点改修に取り組むべきチャンスではないか

慎重に相談しながら行いたい

野田　祐士議員

他の交差点計画の進捗状況はどうか

2年余り家屋移転に応じない物件がある

木山交差点の渋滞緩和への取り組み

野田 一般質問において、毎年一回は木山交差点の渋滞緩和への取り組みについて質問をさせて頂いた。

現在、西側の民有地が様変わりをしている。状況は視野が広がったことにより、車の運転が安心して行え、通行しやすく感じられているのではないかと思っている。

いま、町として交差点の改修に取り組むべき良いチャンスである、と捉えるべきではないか。

「渋滞が激しい交差点」であり長年の課題である、と承知している

町長 交差点北西部の一帯が民間の土地利用の再編がなされ、風景が変わった。現在どのような手法で課題を解決するか、を熊本県と意見交換を行っている。

町として西側民地を先行取得する考えはないか

野田 県との調整を図ることは必要ではあるが、併せて関係者との調整（地権者及び商工会等）を行っていくことも重要である。今後は、町として用地の先行取得も視野にいれて、一つずつ問題を解決していくべきではないか。

それが、町の発展や展開に繋がっていくと考えるが如何か。

皆さんと相談しながら慎重にやっていきたい

町長 地権者や地元商工会には色々な思いがあると考える。買収価格によっては諸々の影響もでてくる。そこを共通認識して相談しながらやっていきたいと思う。

木山交差点

町内の交差点の計画・進捗状況について

野田 益城町にある他の交差点の現在の状況について伺う。

計画・工事進捗状況・補償物件について停滞や中断はないか。

補償物件について

町長 秋津川沿いの道路交差点が、現在、補償物件である住宅の移転が行われていない状況である。用地事務から2年余りが経過しており停滞している。理由として家屋所有者から町に様々な要求がなされ、家屋移転に応じないと主張を繰り返している。

補償事務が終了している

野田 補償事務が終了している（支払いが終わっている）と聞いているが、いつまでにどのような対応をするのか伺う。

粘り強く説得していく

町長 担当課長と一緒になって、信頼関係と人間関係をつくり粘り強くやっていきたい。期日については設定しないでおきたい。

今後の対応について

野田 色々な方（議員含む）の協力を仰いで、早急に対応する必要があるのではないか。

中身を精査している

町長 今までに数十回、話しに行っている。そこに感情が入っているため、期限を決めないで人間関係をつくってやっていきたい。

一般質問

臨時・非正規職員の待遇改善を

勤務条件等について、適正な運用を行うとともに意見を聞きながら働きやすい環境づくりを考えている

小規模事業者への支援策の実現を

地域経済を支えている小規模事業者の活性化のための施策を提案していきたい

甲斐　康之議員

臨時・非正規職員の待遇改善と正職員への任用を

甲斐　県内の市町村職員の非正規率は、35・7％と報じられていた。益城町の非正規率は45・3％で、県内では3番目に高い。職種は、保育、事務、給食の順である。人口の増加地域の自治体が高い、業務量の増加に対し、非正規職員化で対応しているようだ。

総務省が7月に臨時職員の待遇改善などを求める通知を全国の自治体に出している。職務内容が正職員と同一の場合は正職員に任用するよう強調している。人口の増加等による業務量の増加に対応できる職員定数の見直しが必要ではないか。

一、職員の非正規化で住民サービスの低下や災害等への対応力は落ちていないか。

二、低賃金に抑えられている官製ワーキングプアをつくりだしていないか。

三、行政のプロ、専門職は育っているか。

四、職員の年齢構成がいびつになって、行政の継続性に穴が開かないか。

五、臨時・非正規職員の待遇改善と正職員への任用に努める計画はあるか。

意見が通りやすい職場の環境づくりを確立したい

町長　益城町は県内でも非正規率が高いのが現状。保育士の非常勤が増えたのは、待機児童の増加が要因。職員の増員は定数で定められており不可能である。そのために非常勤職員で対応せざるを得ない。採用に当たって、勤務条件等について適正な運用を行っている。

住民サービスは向上している、災害等の対応は全職員に防災訓練を実施している。ワーキングプアの問題では、そういう方がたくさんいるのかなというのは感じている。行政のプロの育成は、人事・研修制度、職場環境づくり、意見の通りやすい仕事づくりを確立することが一番重要と考えている。年齢構成は、データを出して、不足していれば、社会人枠で入れるなど採用を考えていきたい。労働条件の改善については、意見をしっかり聞きながら、働きやすい環境づくりを考えていく。

地域小規模事業者へ

熊本高森線沿線

甲斐　益城町は、小規模事業者（商業・サービス業5人以下）が多数を占めている。消費税増税で消費が落ち込み経営が厳しくなったとの声を聞く。

6月に小規模企業振興基本法が成立した。これは、小規模事業者が地域経済と雇用確保に大きな役割を果たしていることから、事業を支援することを、自治体等に求めた法律である。

いま、町が取り組んでいる支援策が効果を上げているのか、しっかり検証をして新たな支援策を講じる必要があると考える。

地域経済活性化のため、施策の提案等に取り組みたい

町長　益城町では小規模事業者が非常に多い。きめ細かな商品やサービスを提供して、地域の雇用にも貢献し、地域経済を支えている重要な存在である。商工会などと連携を深め、仕事起こし、地域経済の活性化のための施策の提案、経営の促進等に努力していきたい。

事業者の意見を収集して、支援策を講じよ

甲斐　空店舗などを利用しての新規事業起こしや既存事業者に対する支援を積極的に取り組んでいく必要がある。先行している自治体の情報や事業者へのアンケートを実施して意見を収集し、支援策を講じていくべきだと考える。

来年度から住宅リフォーム助成制度を実施したい

町長　町民の居住環境の向上、町内の小規模事業者の活性化のために、来年度から住宅リフォーム助成事業を実施したいと考えている。効果についてはしっかり検証していきたい。

《12月議会での主な議案への賛否の状況》

	事件名	結果	野田 祐士	髙橋 津代美	宮﨑 金次	坂本 貢	甲斐 康之	寺本 英孝	坂口 政弘	石田 秀敏	坂田 みはる	竹上 公也	福永 誠一	稲田 忠則	荒牧 昭博	渡辺 誠男	山内 親宣	江越 信保	議長 中村 健二
予算・条例等	平成26年度一般会計補正予算（第3号）専決処分	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	平成26年度一般会計補正予算（第4号）	可	○	○	○	欠	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	平成26年度介護保険特別会計補正予算（第3号）	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	平成26年度公共下水道特別会計補正予算（第2号）	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	平成26年度農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	平成26年度水道事業会計補正予算（第2号）	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	一般職の職員の給与に関する条例の一部改正	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	浄化槽清掃業の許可に関する条例の一部改正	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	国民健康保険条例の一部改正	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	上益城広域連合の規約の一部変更	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	指定管理者の指定（町民憩いの家）	可	○	○	○	欠	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	指定管理者の指定（総合体育館等）	可	○	○	○	欠	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	指定管理者の指定（文化会館）	可	○	○	○	欠	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	物品の購入について（文化会館音響操作卓等）	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	監査委員の任命同意について	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	人権擁護委員の推薦について（3名）	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	「農協改革」に関する意見書（議員提出）	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
請願	「農協改革」に関する請願書	可	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

○：賛成　×：反対　棄：棄権　欠：欠席　可：可決　否：否決　裁：議長裁決

※議長は賛否同数の場合等を除き、通常の採決には加わりません。

人権擁護委員に議会から3人を承認

平成26年12月定例議会において、町長から人権擁護委員の候補者として3人の推薦があり、承認されました。

議会で人権擁護委員に承認された方は次の通り

中川 節子 氏（新任）
住　所　益城町辻の城
生年月日　昭和22年4月26日

野口 泰喜 氏（再任）
住　所　益城町小谷
生年月日　昭和23年1月10日

森田 俊彦 氏（再任）
住　所　益城町広崎
生年月日　昭和22年3月3日

人権擁護委員とは、人権擁護委員法に基づいて、人権相談を受けたり人権の考えを広める活動をしている民間ボランティアです。

町長が候補者を選び、議会の意見を聞いて法務局へ推薦し、法務大臣が委嘱します。

益城町監査委員に次の方が選任されました

濱田 義紀 氏（再任）
住　所　益城町広崎
生年月日　昭和15年3月10日

表紙のことば

あけましておめでとうございます。

新しい年の幕開けに相応しい、平成二十七年元旦の日の出を狙っていたんだが、一日、二日ともに拝めず。

一月三日早朝K神社へ初詣、皆の幸せを祈願し自宅へ帰る途中、うす雲はかかっているがなんとか日の出を拝めそうな雰囲気である。急ぎ足でカメラを取りに行き、やっと撮れた一枚である。

毎年、「日の出」か「どんどや」でなんとなく面白くないけど…たまには餅つき、凧揚げ、コマまわしの風景を撮りたいと思うが、なかなかそのような風景に遭遇することができない今日この頃である。

（写真・文　中村健二）

常任委員会レポート　12月議会

総務

益城町文化会館及び総合体育館等の管理を民間に委託

総務常任委員会では、付託された4議案について、慎重な審査の結果、全委員賛成により可決・認定した。

審議の中で、議案第60号「平成26年度益城町一般会計補正予算（第4号）」の益城町文化会館及び益城町総合体育館等を、先の条例に基づき、指定管理者に移行する為に必要な債務負担行為の補正（益城町文化会館指定管理料平成27年から5年間で2億1000万円、益城町総合体育館等の指定管理料同5年間で2億2500万円）について、①委託料は適切であるか。②管理を民間に委託した場合に、住民へのサービスが低下するような事はないかなどの質疑応答が熱心になされた。また、教科書改訂に伴う教師用教材費、更にふるさとづくり施設整備費補助金、電子計算機運用費のシステム開発委託料等について質疑・確認があった。

議案第65号「益城町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について」は、施行日や勤勉手当の率等について質疑があった。

現地視察は、指定管理者制度を、今年度10月からすでに導入している御船町スポーツセンターについて研修し、委託を受けている公益財団法人熊本ＹＭＣＡの担当者から、現在の事業内容や委託後の状況、更に利用者の利便性を高めるため、法人所有のバスにより、山間部等への送迎を行う事とした結果、入館者数が昨年より増加している等の説明を受けた。

スポーツセンター内屋内プール視察

御船町スポーツセンター

福祉

「町民憩いの家」指定管理者に移行

指定管理料（債務負担行為）　5400万円（3ヵ年 H27～H29）

福祉常任委員会では、付託された5議案について審査を行い、関係課長から詳細な説明を受け、慎重審査の結果、いずれも原案の通り可決した。

「町民憩いの家」の債務負担行為の内容及び金額、財源について質問があり、予算計上をして財源（一般会計）確保により協定を結ぶことが可能となる、との説明を受けた。また2年後3年後に増額補正はないかとの質問があり、担当課長より、増額は無い趣旨の説明を受けた。

また、保育士等処遇改善臨時特例事業補助金の使い方についての質問があり、担当課長より、保育所で雇用する職員にのみ勤務貢献度により支給額を決めて一時金として3月に支給する、との説明を受けた。

浄化槽清掃業の許可が1年以内から2年以内に改正する理由や対象者数について質問があり、県内の状況について説明を受けた。また益城町の業者数は2業者との説明があった。

現地視察については、既に指定管理者制度を取り入れて行っている菊陽町総合交流ターミナル「さんふれあ」の視察を行った。担当者より施設の概要について説明を受け、「地元とのつながりを大切にして、住民サービスを低下させないことが重要である」との説明があった。

町民憩いの家

菊陽町総合交流ターミナル「さんふれあ」内

常任委員会レポート　12月議会

建設経済

木山交差点用地を先行取得をするように要望する

建設・経済常任委員会では、付託された3議案及び請願1件について審査を行い、慎重審議の結果、原案の通り全会一致で可決及び採択した。

平成26年度一般会計補正予算では、地籍調査事業の進捗状況について質問があり、完了予定年度を確認した上で、一日でも早く完了するよう強い要望があった。

平成26年度公共下水道特別会計補正予算では、工事費減額について質問があり、担当者から単独工事費の減額で、補助対象工事は増となっているとの説明を受けた。

現地視察では、町道テクノ工業団地線及び津森汚水幹線・支線管渠築造工事現場において、工事概要や整備状況の説明を受け、それぞれ確認の上、町道については、道路建設の意義を無駄にしないよう県と企業誘致について協議を進めるべきとの意見があった。下水道工事現場では、安全管理と事故防止を徹底するよう要望があった。

なお、木山交差点用地問題について、町による先行取得をするべきとの強い意見があった。

町道テクノ工業団地線視察

津森汚水幹線・支線管渠築造工事視察

平成26年　議員研修「奈良・三重県」に学ぶ

らくらく農法（奈良県下市町）

平成26年度議員研修は、議員15名と事務局長の16人が参加して、10月27日(月)から29日(水)の間、奈良県下市町及び三重県玉城町等を研修した。

研修1日目に訪れた奈良県下市町は、吉野川の上流山間地に位置し、人口約7千人で柿や木材等の一次産業を中心とした町で、進行する少子高齢化による人口減少により、10年後には耕作地の3分の1が耕作放棄地になるとの危機感から、なんとか10年後まで農業が続けられる「らくらく農法」を実施している。

まず住民自ら集落を点検し、10年後の耕作地を把握、次に住民の体を診断し、らくらく体操を推奨（ピンピンコロリを合言葉に）、更に機械活用や柿の葉生産等によりらくらく栽培、これらを成立たせるための農業生産販売協同組合を設立、また農業従事者の高齢化を支えるために、他出者の居住地を把握活用する等、地域自らが考えて工夫する事をモットーとした「らくらく農法」により成果を収めていた。

本研修を通じ、我が町でも福田・飯野地区の山間地での農業のやり方や行政に頼らない自主的な取組等について大いに参考になった。

下市町のらくらく農法

ICTを活用した元気バス（三重県玉城町）

研修2日目に訪れた三重県玉城町は、伊勢市に隣接し人口約1万5千人、約8キロ四方のこぢんまりとした町であったが、ここでは平成8年に民間路線バスの大幅縮小に伴い、町民の交通を確保するため、マイクロバス2台を購入運行したが利用者が少なく、やむなく利用率を高めるため、予約制の乗合バス（オンデマンド交通）方式としたが、利用者は増えなかった。

そこで玉城町は、東京大学の先生方の支援を受けて、到着時刻が遅延しない運行方法や予約を簡単にするためのインターフェイスを開発、更にマイクロバスを小型の3台に替え、バス停を倍増して利用者の便を図るとともに、利用者の年齢制限を廃止、更に運賃を無料にした。

特にオペレーターと運転手の連絡を容易にするため、元気バスに車載器を取り付ける等した結果、路線バス廃止時の1日700人であった利用者が、1日約2400人程度が利用するまでに増加する事となった。

玉城町の「元気バス」の研修を通じて、ICTを活用したオンデマンド交通の有効性については十分に理解できたが、我が町にとりいれる場合においては、路線バス会社やタクシー会社との競合等からそのまま取りいれるのは難しいが、町民の利便性向上の観点から大いに参考になる研修であった。

（文責　宮﨑金次）

運行を指示するオペレーター

玉城町の元気バス

熊大学生（4名）の厳しい目

縁遠い議会を住民目線で伝えて

熊本県町村議会広報研修に参加

議会広報特別委員会は去る11月19日、メルパルク熊本において、町村議会広報研修会に参加した。

毎年行われるこの研修は県内各町村議会広報委員が一堂に会して行われ、それぞれの議会広報誌が評価されるもので、厳しい評価を受けながらも、今後の広報誌づくりに大変意義深いものとなった。

今回は、熊本大学客員教授（越地氏）、熊日新聞編集員（中村氏）他、熊本大学（しんぶんカフェ）のメンバーから様々な講評を受けるなど、当町の議会広報誌の痛感する研修になった。

特に若い世代から見た議会広報と題して大学生からは次のような意見が出された。

- 若者は議会広報誌を知らない
- 議会は縁遠い
- 自分が住む町の議会がわかる
- カラーだから読みやすいとは限らない
- 住民と議会が係わる記事を
- 議員の仕事は何？
- 研修会で議員は何を学んだか掲載を

など若い人から見た議会広報に対して率直な意見が聞けた。

また主任講師の全般意見として、

- 住民目線がカギ、内と外どちらを意識するか
- 自己満足より読者の満足度優先
- 報告に終わらず、立ち止まって考える紙面に
- 一紙面に多くの色は使わない
- 一般質問の紙面に小見出しはあまり多く使わない

以上のような具体的な指摘があり、今後の紙面づくりに大いに参考にしなければならないことに気づかされる研修であった。

意見を述べる熊本大学の学生

編集後記

12月の議会が終了し、あわただしかった年の瀬も終わり、「羊年」らしく穏やかな新年を迎えたと思っていた矢先、お年玉を貰いにきた孫たちが、お返しに「インフルエンザのウイルス」を置いて帰ってくれました。

孫たちから貰ったインフルエンザウイルスとの戦いが3日3晩も続き、何とか「ウイルス」を撃滅して、平穏な生活に復帰。

「羊年」の今年は、「穏やかで、辛抱の年」と言われているが、我々編集委員としては、議員手作りの議会だより「清水」を、町民の皆様に、更に読んでいただけるよう努力してまいります。

（文責　宮﨑金次）

議会広報編集特別委員会

委員長	江越　信保
副委員長	坂田みはる
委員	竹上　公也
委員	甲斐　康之
委員	宮﨑　金次
委員	野田　祐士

いどばた談議

皆で健康を考えよう

朝食を食べていますか？

食べ方は・・・？　朝食を食べない人は、20代男性、40代男性が約4人に1人です。

肥満の人が「夜食」「早食い」「満腹まで食べる」傾向にあります。

『朝食抜き』が体にもたらす５つの悪影響

1　心臓病や肥満のリスクが高まる
2　記憶力が悪くなる
3　元気が出ない
4　栄養を適切に吸収できない
5　集中出来ない

（ライブドアニュースより）

朝ごはんで頭と体のスイッチを入れ、イキイキとした１日を始めましょう

参考資料　熊本県健康福祉部

むぞらしかお宝さん 5

益城町立第三保育所

年の瀬もせまり、辺りの風景には行きかう人の少しばかりの気ぜわしさが伝わってくる中、保育室では園児のおもちゃ遊びと先生方の大掃除が同時進行中。「津森の保育所」と言われるほど地域密着型の第三保育所は、地元津森からは80人の園児が、木山、広安校区から10人、定員90人が通っています。中には親子２代ここに通うと言う人もおられ、また祖父母の皆さんの助け合い、協力体制がしっかりと根付いていて、地元の地域性が生かされ良い面が多いとのことです。

園庭から見渡すと、風渡る田畑が広がり園児の声が明るくはじけ、季節の移り変わりを肌で感じホッとできる環境があります。「そのすべてが心豊かで友達を思いやる、気づきあう、優しい強い子どもを育てる」と谷川所長が熱く語って下さいました。保育士の先生方は、子どもたちのお母さんがわり、おばあちゃんがわりなので、家族のように園児一人ひとりに接し、かかわるようにし、時には大声が飛び出してもOKだそうです。

年間行事も盛りだくさんで、今年のクリスマス会にはサンタさんが登場し、子ども達に沢山の笑顔のプレゼント。

子どもは風の子　鉄棒の冷たさもへっちゃら

園庭の砂場には10年物のブドウ棚があります。

夏場は園児を強い日差しから守り、そして見事な実をつけ味わうことも。また菜園活動は地元の方のお力添え。スイカも植えて下さったそうです。

園外活動では津森小学校との交流もあり、伍三郎農園でのジャガイモ掘りや、津森校区行事での和太鼓披露、施設、病院での交流と様々な体験が子ども達を育みます。世代を超えた地元愛でお宝さんは守られているなぁと感じました。

（取材　坂田みはる）

サンタさんに会えて大喜びの園児たち

平成27年2月　益城町議会だより 清　水

発行／益城町議会（議長・中村健二）編集／議会広報編集特別委員会
〒861-2295 熊本県上益城郡益城町宮園702 TEL.096-286-3351（直通）FAX.096-286-4523（代表）
印刷／ホープ印刷㈱

この議会だよりはエコマーク商品の再生紙をつかっています